コーデイネータによる各講演のまとめと討論

　コーデイネータの森下氏は、本来ここで講演をいただいた御三方にパネリストとなってもらって総合討論を煽動してもらう予定だったが、残りの時間から見てその余裕がないのでコーデイネータがまず御三方の講演をそれぞれおさらいした上で、私の方からそれぞれの方に質問をするので講師の皆さんがそれに応える形で議論を広げてもらいたいと前置きの後、それぞれの講師に質問を投げかけた。以下にその後の討論を要約する。

１．石原先生の講演に対する問題提起

「石原先生は　もとは 2100 年カーボンニュートラル達成という目標で研究を開始されて今後の人口減少を前提にその達成が可能なシナリオを出された。だがカーボンニュートラルが 2050 年に目標が早められるとその達成が大変と考えていないか？石原先生の率直な見解をお聞きしたい」

●石原先生：私の検討範囲では 2050 年達成は非常に難しいと私は考えている。今から水素資源の調達に注力しないと対応できない。

●八尾先生：石原先生の計算は原発 20 基を前提とした場合であり、堀池先生の提言のように原発を 60 基となると話は違ってくる。

●石原先生：原発の稼働は福島事故以前でも 50 基程度であり、原発が 50 基、60 基も稼働となると社会的受容の面で難しそうだ。私の国外からの水素調達でもそうだが他人を犠牲にしてまで自給率を上げるということと社会的受容性とは分けて考えないといけない。

２．堀池先生の講演に対する問題提起

「保全学会の 3 つの提言で出されている原発のリプレースは報道で見る限り現実的だが、私の昔からの常識から言えば原発は負荷追従運転すべきものではなかった。八尾先生は、再生可能エネルギーの変動性に合わせて原発が負荷追従運転する位なら再エネを減らしたらどうか、と提案された。現実論として原発の負荷追従運転は原発の効率を下げるから避けるという常識が、再生可能エネルギーの変動性を火力で補てんすると炭酸ガス放出に繋がるから原発による負荷追従で炭酸ガス排出を避けるというようになった、ということか？」

●堀池先生：はい、昔は電気代が高くなるのは避けるということから原発の出力を負荷に合わせて下げるのはとんでもないという考えだったが、今は炭酸ガスを排出しない再生可能エネルギーを優先し、その時間的な変動性をカバーするために炭酸ガスを排出する火力を使うくらいなら原発の出力運転を変動させてカバーしたほうが良いということだ。

３．山下氏の講演に対する問題提起

「山下さんの講演では再生可能エネルギーの社会的普及にはいろいろ課題があることを示されたが、社会的受容性という点で、原発と再生可能エネルギーの双方は同じものなのか？」

●山下さん：原発と再エネとでは規模感が違う。そのため自分たちで事業ができるかどうかが最も違うと思う。他方、地域にメリットをもたらさずリスクをもたらす事業に対して NIMBY という反応はある意味では当たり前だろう。地域のメリットがあるといってもおこぼれをもらうというのと自分でやれるというのでは違う。今のように科学的ではない情報が多くなって混乱しているという点は共通している。

●八尾先生：原子力教育で国民の理解を上げれば社会的受容性が高まるというが、これはあまりにも直線的な考え方であり、むしろ別のやり方で考えるべきだ。理系の人が興味を持っても、文系の人は興味を持たず、いくら説明しても浸透しない。これは個性の問題であり、文系の人が興味を持つようなこと、例えば伝記などで人としての科学者に触れることにより、その人物像から原子力や放射能に興味を持って考えようとするように方向づける活動をやってみようと思っている。

●堀池先生：これからシンビオで行おうとしているそのようなアクテイブラーニング活動に期待したい。